

## 令和7年度学校関係者評価 学校自己評価の結果

### 【1】評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断しました。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断しました。 (A:とても思う B:思う C:あまり思わない D:まったく思わない E:わからない)

### 【2】全体的な傾向

児童・保護者・職員とも、肯定的評価の割合が高くおおむね満足できる状態だと言えます。その上で、児童が安心して学校生活が送れるよう、学級及び学校全体での取組を継続していくことが肝要であると感じています。

〈児童において〉

【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、17項目中14項目であり、その内、6項目で100%、5項目で90%以上の肯定的評価で、全体的には良好な結果となりました。しかし、「⑭わたしは、本を読んでいる。」においては、肯定的評価が69%と、80%を下回っています。昨年度までは、高学年において否定的評価が高い傾向にありましたが、今年度は低学年、中学年においても否定的評価を回答した児童が見られます。

また、【C】【D】評価に焦点を当ててみると、その割合が比較的高かったのは、「⑧わたしは、家の人に学校のように話をしている。」「⑩わたしは、早寝早起きをしている。」の2項目です。

〈保護者において〉

13項目全てで【A】【B】の合計が80%を超えています。さらに、その内11項目が90%を超える肯定的な評価になっており、満足できる状況にあると判断できます。また、【E】「わからない」という回答は、昨年度調査に比べて減ってきており、保護者の各行事や授業参観への参加、学校からのおたよりやホームページ等による積極的な情報発信の成果であると推察されます。

〈職員において〉

全ての項目で【A】【B】評価の合計が80%以上となりました。その内【A】評価だけで80%以上のものは7項目にのぼり、「十分できている」と評価できる状況にあります。職員それぞれの立場で、教育活動に積極的に取り組んだ成果であり、全体的として良好な推移を見せていると言えます。

### 【3】個別の分析

#### (1)【確かな学力】にかかわって

令和4年度より始まった楡形中学校区小中一貫教育では、「かかわり・対話・学び合い」をキーワードとして全教職員が同じ方向性をもって教育活動を展開しています。本校は、今年度より総合教育センター「研究推進校」の指定を受け、センターの支援をいただきながら『学び合い』を取り入れた授業づくりに取り組んできました。センターの指導主事による理論研究と本校教員の授業実践を通じ、『学び合い』について考え、その授業方法について研究を進めてきました。今後もさらなる授業改善



に取り組み、学校教育目標の実現を図っていききたいと思います。

児童の回答結果を見ますと、「⑨わたしは、学校の授業がわかる。」「⑩わたしは、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。」の結果は、100%の児童が肯定的な評価でした。「聞くこと」が理解に繋がっていると考えられます。しかし、「⑪わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」では、他の項目に比べて数値が低調です。安心して学習し、自分の考えが伝えられる学級づくりに努め、児童が取り残されることのない学校、学級づくりを目指していく必要があります。



保護者の回答結果を見ると、「⑫お子さんは、授業の内容が分かっていますか。」の項目に95.9%の肯定的な評価を得ています。このことは、「わかる授業」を目指した授業改善が一定の成果を収めていると考えます。また、家庭学習についても保護者の協力を得て、児童が進めていることも推察できます。今後も家庭と連携し、協力をいただきながら、学校における「わかる授業」の推進と児童が進んで学習に取り組めるよう働きかけを継続していききたいと思います。

## (2) 【豊かな心】にかかわって (いじめに対する取り組みを含む)



“いじめ”に関わっては、8件が報告されています。丁寧な聞き取りと関係した児童、保護者へ担任だけでなく、複数の教員で対応を行っています。職員が生徒指導の基本を忠実に実践し対応していて、聞き取りに際しては、双方の児童に寄り添いながら行い、公正な立場で状況を把握し指導を行っています。その言動や出来事が、児童にとっては重大なものであったことを認めながら、今後の人間関係が良好なものになるよう働きかけを行っています。些細な事案であっても組織的に情報の共有・報告する体制を徹底し、今後も「未然防止」「早期発見」「早期解決」に重点を置き、児童の様子に注視しながら軽微

なものも見逃さず、良好な人間関係づくりに努め、誰もが気持ちよく学校生活を送れるようにしていく所存です。「西小は大きな家族」という理念の下、今後も、全職員がどの児童に対しても温かい言葉かけで信頼関係を築き、心豊かでたくましい児童の育成に取り組んでいきます。

橿形地区小中学校で取り組んでいる「あいさつ」「無言清掃」「靴そろえ」は、その肯定率から見ても定着している様子がうかがえます。「⑬わたしは、自分からあいさつしている。」については、肯定的評価が98%と極めて高い結果になりました。日頃から、高学年を中心にして挨拶の声が聞かれ、それが下級生に浸透していると考えられます。児童会活動での挨拶運動の成果も表れています。また、小中一貫の取組として1学期と2学期に1回ずつ、卒業した先輩たちと一緒に「朝の挨拶運動」を行いました。2学期には「橿形地区一斉あいさつ運動」との合同取組を行い、児童と中学生、地域の大人と一緒にあいさつ運動をする姿がありました。その姿に良い影響を与えられていると思います。今後も、さらに「気持ちのよいあいさつ」ができるように働きかけていきたいと思っています。

「⑭わたしは、本を読んでいる。」の肯定的評価が80%を下回りました。昨年度も低かった項目です。司書と図書委員を中心に放送や読書週間の呼びかけ等を行い、工夫して本に親しむ取組を進めていました。読書月間では、校長はじめ職員やボランティア、図書委員による読み聞かせの機会をつくったり、全校が集まって図書集会を行ったりして読書に意識が向くよう取り組み、さまざまな本に触れる機会を設けています。以前であれば、授業前やすきま時間での読書をしていました。1人1台端末の普及により、学習や活動での情報収集、資料作成、また、タイピング練習などでChromebook(タブレット)の利用が増えています。また休み時間は、高学年では児童会や委員会の活動も多く、外で体を動かすことを好む児童も多いです。しかしながら、文章から想像することの楽しさや物語への没入感、登場人物への共感や批判など読書による教的低効果は計り知れません。そのため、月曜日と木曜日の「朝読書」の時間を確実に確保するとともに、職員も

児童と共に読書を行うことで「読書に親しむ姿」を範として示し、全校挙げて読書活動を推進していきます。

### (3) 【健やかな身体】にかかわって

健やかな学校生活のためには、“早寝”“早起き”“朝ごはん”の習慣が不可欠です。元気に学校生活を送るために、家庭で朝食を欠かさず準備し、児童もしっかり食べてきていることが結果からわかります。しかし、“早寝”“早起き”に関しては、十分な睡眠が取れていない児童が散見されます。特に高学年でその傾向が顕著ですが、昨年度に比べ低・中学年でも数値が上昇しています。これは児童に自覚を促すとともに、家庭への協力を強くもとめていくべき課題です。児童の学校生活に支障がないようにするだけでなく、育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げてもらうためにも、お便りや学年懇談会等を通じて家庭とも連携を深めていきたいと思えます。(早速「保健だより」にて、アンケート結果と睡眠の重要性を取り上げました。)



汗いっぱいになって体を動かすことを楽しんでいる児童、室内で過ごすことの多い児童と休み時間の過ごし方はまちまちです。体力づくりの面からみると体を動かすことの大切さにも目を向けていかなければなりません。今年度も児童会や体育委員会による全校での体を動かす取組や、なわとび検定を実施し、運動への意欲づけと機会確保に努めています。今後も健やかな体づくりにも目を向けて取り組んでいく必要があります。

### (4) 【学校・家庭・地域との連携】にかかわって



教育活動を進めるには、家庭や地域との連携は必要不可欠です。このことに関わる質問について、保護者から高い肯定的評価を得られており、連携をとった教育活動がなされていると判断できます。また、「⑦学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか。」という項目では、95%以上の肯定的評価を得られています。児童の成長を見守り、児童が安心して学校生活を送れるようにするために、学校は家庭との距離が近くなるような関わり方をしていく必要があると考えます。今後も、家庭との連絡、相談、情報提供等を十分に

行い、深い信頼関係が結ばれるよう努めたいと思えます。児童の学校での様子や教師の思いが伝えられ、理解や共感してもらえることで信頼を得られると考えております。担任を含め様々な職員が学校の様子や思いを知らせるための“お便り”や家庭への連絡など、家庭との連携が深められるように取り組んでいます。“信頼される学校”づくりのために、今後も取り組んでいきます。

今年度、山日YBS厚生文化事業団による「第4回チャレンジ150山人会賞」を受賞しました。本校で実施している「穂見神社・高尾の夜祭」の学習会が、郷土の文化と伝統行事にふれ、それを大切にしている人たちの努力を知り、地域の方々と共に文化を継承していくことの大切さを学んでいることが評価されました。“地域とともにある学校”にするために、多くの場面で地域の人的資源や物的資源を活用し学習活動を進めています。西小学校は地域に支えられている学校です。地域を大切に考え、地域に関わってもらいながら教育活動を進めることを目指しています。そのような教育活動ができていることに誇りに感じています。これは、児童においても地域に誇りを持つことに一役買っています。「⑩地域の人(低学年:おうちの人)から教えてもらった授業は楽しかった。」では、児童の肯定的評価は100%となっています。地域の方や保護者が講師(協力者)となり進められる授業において、児童の学習意欲が高いことを示しています。今後も地域と共に歩んでいけるよう、特色ある西小学校の学習活動として継続できるようにしたいと考えています。

#### (5) 【情報端末】にかかわって



携帯電話、スマートフォンの所有率は全校で52.9%となり、昨年度同様半数以上の児童が所有している結果となっています。また、所有している中で、利用ルールが決められているのは68.8%であり、3分の1は、児童自身の意識では“ルールなし”で使用していることがわかります。児童の質問内容より広い範囲の“情報端末”としているため、児童の調査結果と一概に比較できませんが、利用ルールを決めている保護者の回答は、83.3%となり、児童と保護者の回答に剥離が見られる点も懸念されます。学校のChromebook（タブレット端末）を

含め、道具として学習用具の一つとして正しく使用できるように学校でも指導を行っていくとともに、家庭に対しフィルタリングの徹底とルールづくりの協力をお願いしていきます。また、児童の発達段階において情報モラル、情報リテラシーを身につける指導を行うとともに、毎年高学年児童と保護者を対象に行っている「ほっと！ネットセミナー」を全学年での実施も検討し、トラブル未然防止に向けた学習機会を設けていきたいと考えています。

#### (6) その他（自由記述欄に関わって）

保護者自由記述に関わって、些細なことであっても、管理職や教務への連絡、報告をして、学校全体として対応していきます。併せて児童、保護者に関わる個人情報の管理も徹底していきます。

職員自由記述に関わって、「児童主体」の教育活動の推進をさらに図っていきたいと思います。児童自らが考え、実践する取組こそが高い効果を生むと確信しています。また、本校の特色として行っている子どもたちが実際に見て、触って、歩く体験学習、地域学習の重要性を意識して、今後も実施していきたいと思えます。さまざまな場面で、大人たちの姿を子どもたちは見ていること、そして我々職員も児童の前に立つにあたって、児童の規範となるべく、日々の言動を律していくことを確認いたしました。